

家庭教育と幼稚園

東 基 吉

本論は、過般神田區教育會に於てなしたる演説の速記なり。

(前略)さて子供に教育を施す場所に付きて考へますと、大體、家庭と學校との二に分れます、勿論、廣い意味から申しますと、此他にもありまするが、普通、此二に別けて見ることが出来ます。そこで此家庭と學校との教育の仕方を比較しますと、大體入學以前の家庭教育は極めて自然で、規律的に入釜しく一の案に由つて秩序正しく行つて行く所の學校の仕方とは違つて、親子兄弟うち寄つて、自然に子供の身體、精神を發達させて行くといふ方でありまして、此點に於きまして家庭の教育は、學校教育とは頗る其趣を異にして居るのであります。

夫から、も一つ、養育を分つて、通例、智育、德育、體育の三としますが、家庭教育の方で申しますと、此三育の中でも、特に子供の感情の圓滿なる育成即ち德育の萌芽を涵養すること、身體の健全なる發育即ち、體育、此二つが主となつて行くのであります、勿論、子供が生れてから、三年間に於て外界の智識を授ける所の分量は、學生が、三年間大學に於て學ぶ分量よりも遙に餘計であるといつた學者もありません、夫は主に子供が自然に得て行くのであります、家庭では決して、智識を得

させる目的で、態と施す教育が主となるべきではない。そういふ風の教育は、學校が主として行るべきであつて、家庭では、どこまでも、圓滿なる感情の育成と、身體の養護の二つが主となるべきである。勿論學校に於ても此二者を力めることは力めるけれども、併し、専ら有力なる結果を與ふる所のものは、今日に於てはどうしても、直接智識を與ふる點にあります。家庭の教育と、學校の教育とは、有り如く形式の上と方針の上とに此二つの相違があります。

そこで、大體、そういふ其合になつて居りますけれども、元來、學校教育といふものは、子供が家庭で得た所の感情なり、知識なりが土臺となつて始めて出来るのでありまして、若し入學前に於て子供に家庭教育といふものが、一つもなかつたとしたならば、學校教育の施行が餘程困難となるのであつて、従つて、家庭教育が、十分完全に行はれて居つたならば、餘程し易くなり、且つ其結果も頗る大なるものとなりませう。故に、學校の教育の結果がよくないからと申して、直ちに學校教育の方法が誤つて居ると速斷することは出来ぬ。基礎となる教育の施し方が悪い場合には、どれ程學校教育に骨を折つても到底、結果の完全なることは望まれないのであす。

家庭教育と學校教育との關係は、こう云う風になつて居りますからして、子供を教育する爲めに、早くから、家庭から離して他所に預ける、例令は共同の寄宿舎とか、他人の家に寄寓させるなど申す事は、教育上、甚だ面白からぬ所置と申さんければなりません。家庭教育は、學校教育の基礎となる事

は、前申した様でありませんが、其他に、家庭に於ては、何處でどうしても得ることの出来ない訓練を興へることがあるのであります。即ち家庭の精神を得しめることでありまして、家庭といふものは元來親子兄弟などいふ血族の關係から成り立つて居るのでありますから、自分と家族といふものを全く一にして仕舞ふ感情が生じる。そこからして、自分の不幸と、家族の不幸とを統一することに、これが即ち家庭精神といふものであつて、これは、決して他所に在つて、發達涵養せしめることは出来ないものであります。此の如き次第であるから、早くから、子供を父母の膝下から去らしめるのは、教育上、不當の所置だとなつて居る。但し、其家庭の風儀が非常に悪くつて、或は常に風波が絶えない、子供は、之が悪影響を受けるといふ様な家庭であります、之は勿論々外であります。こう云ふ風な家庭にありましては、無論他所に移して教育する事も、亦已むを得ぬ次第となるのであります。

教育を施す場所としての家庭と學校との關係は、右申す様な次第であります。然らば、幼稚園とは如何なるものと申しますと、幼稚園に付きては随分世間の人は誤解を持つて居る、又誤解されても已むを得ぬ譯もありません。夫は、今迄して居る幼稚園は結果から見て、或は幼稚園にては、到底善良な結果を得ることが出来ない、と斷じる人もあり、又一方からは次の様に批難もせられるのであります。前申した様に、家庭といふものは、教育上甚だ重要な位置を占めて居るものであるに、幼稚園

は家庭教育を受くべき時期の子供を家庭から取り離して了ふのである、然らば即ち、幼稚園なるものは不當の教育を施して居るのだと論じるのであります。

併しながら、本来普通の幼稚園といふものは、決してそいふ性質のものでありませぬ。家庭に代つて教育しようといふのは幼稚園の本旨ではない。こいふ性質の施設は、外国には別にありまして即ち幼児依託所といつて、専ら日々を生計に忙はしくつて、自ら子供の教育をすることの出来ない労働者の子供を、凡そ二才位から預ることになつて居ります、即ち父母は朝労働に出がけに、子供を其處に預けて行つて、仕事からの歸りに又其處に寄つて子供を受け取つて歸るといふ風になつて居ります。所が普通の幼稚園は之とは違つて、保育する時間も日に五時間以内であります。幼児依託所は一日中預つて居ります、家庭に代はるといふよりも寧ろ家庭のない子供に、學校教育の基礎を與へる所であるといつて宜しいのであります。幼稚園では、五時間の保育を施せば、他の時間は家庭でやらせます、即ち幼児依託所とは異にして、家庭に代つて、教育するのでなくして、家庭の教育を補つて一層完全なる基礎的教育を施さうといふのであります。

一體家庭教育に於ては、本来非常なる良果を有するものであります、亦必然に缺くる所もありません。或は缺けて居りませんでも、どうしても、家庭により事情によりて、完全に子供の教育を施し難い所もありません。其必然に缺けて居るといふ點から申しますと、家庭に於ては、全年輩の者との交際が少い

兄弟などが澤山あればまだしも宜しいが、然し、兄弟といつても全年輩でない、これは教育上何處か  
 で補はねばならぬ缺點であります、子供が自分と全年輩の者と互に遊ぶといふことは、其時期々々に  
 相當した子供の道徳上、感情上に影響する所が非常に大なるものであります。友愛とか社交とかいふ  
 徳の涵養は、どうしても、家庭教育に於ては欠くる所があるのであります。

所が、幼稚園では御承知の通り、同年輩の者が澤山集つて居る所から、夫等相互の交際からして、今  
 述べた所の家庭教育の缺點を補ふのでありまして、即ち、家庭に於て、どうしても躰けの出來ぬ所の  
 教育の部分を完成しやうといふのが、幼稚園の一の重要な目的になつて居るのであります。夫から、  
 幼稚園時代の子供は、家庭に於て、どうしても運動が十分出來ない、此時代に於て身體の發達が非常  
 なものであるからして、幼児に相當した十分の運動をさせなくてはならぬのであるが、家庭に於ては  
 夫が不足だ、其處で幼稚園は、更に北方面に於ける家庭教育の不足を補つて行かうといふのでありま  
 す。

幼稚園教育と家庭教育との關係は右の様でありますから、幼稚園教育の方針は矢張家庭教育の方針と  
 殆んど全じでなければなりません。前申しました様に、家庭教育に於ては、知育は大體自然に委せて  
 身體の發育、感情の育成に向つて専ら努めますが、幼稚園に於ても、矢張此二方面の教育が主要の  
 ものとなつて知識を子供に得させようといふ方は、矢張自然的にするといふのが、本體となるべきで

あります。所が、今日迄やり來つた幼稚園といふものを見ますと、殆んど之とは反對の有様になつて居りました、餘程、知力開發の方に努めて居ました。之は父兄の方でも、子供を幼稚園に出して、早くから伶俐に、物知りにしようといふ考があり、又幼稚園の方でも、今述べた様な理屈を考へないでたいく父兄の望に副うてやればよいといふ様な考からして、自然に知識教育の方に傾いて來たものでありましよう、これは双方から宜しくない、つまり幼稚園は家庭教育を補つて行くのであるからして、其方針を家庭教育と全じ様にすべきが、本體でなくてはならぬのであります。

そこで、知識教育を主とする幼稚園の弊害を一つ擧げて見ますと、第一、此時期の子供に向つて、系統的に知識を與へた所が、子供は到底了解か出來ないのであるから、折角、與へた知識を、子供は反つて誤解して居る、即ち知識が知識とならないで間違つた知識となつて這入る、夫から、も一つは、生長して學校に行けば分ることをば、幼稚園で非常に骨折つて教へなければならず、又小供も、非常な困難を以て學ばねばならぬ、これは骨折り損の疲勞儲けといふもの、次には、子供の了解出來ない事を教へるから、不注意の習慣を得させる、此不注意の習慣はやがて學校に入つても永續する、幼稚園を出た生徒が不注意だといはれるのは幾らか此處から來るのだと考へられる、一體、幼稚園といふものは、御承知の通り、獨乙のプロエベルといふ人の創設した所でありますが、其プロエベルの考といふは、全く遊戯を以て教育して行かうといふので在りまして、此原理は、今日に於ても、實に動

かすべからざる眞理しんりであります。然るに知識ちしきを主とする幼稚園教育えいごうは、即ち遊戯あそびを第二として、之に代ふるに勤勞きんらうを以つてするものである。然るに此時代の幼兒えいごといふものには、尙未だ勤勞きんらうは早や過ぎる。幼稚園に於て勤勞きんらうを課して教育きょういくしようといふ時は、即ち其方法は餘程無理になる。勿論、唱歌うたがをやらせるとか、細工こいくをやらせるとかといふ時は、勤勞きんらうの様に見えるけれども、夫は純粹の勤勞きんらうでなくつて、勤勞の遊戯あそびをして居るとせねばならぬのであります。そして、其遊戯あそびによつて、前申した情育じやういく、體育たいいくを十分じふぶんならしめるべきであります。

次に、幼稚園教育の結果けつこであります。之は多少世人の注目する所でありまして、幼稚園を出て學校に行つた子供の成績せいせきは如何いかにといふことは、時々、人から尋ねられるものであります。理論りろんからいへばどうしても幼稚園を出た子供の成績結果せいせきがよくなくてはならぬのであります。時々反對の結果けいこがあると思ひまして、どうも幼稚園を出た子供の成績せいせきはよくないといふ所から、引いて、幼稚園教育の無益むえきなことを主張する教育者きょういくしやがあります。私も之に付きては、嘗て大體の統計を取つて見た事もありませんし、又女子高等師範の附屬幼稚園では、年々其卒業兒童に付きて統計を取つて見て居ります。成程、夫等によつて見ますと、勿論著るしい結果けいこが見えないのであります。家庭から出たものと比較して大した相違さうびがないのであります。

併しなから、結果けつこが十分でないからといつて、直ちに其ものが無益だと速断そくだんは出来ない。私は、此結果

の十分でないのに付きては、其原因は種々あると思ひますが、幼稚園の方から申しますと、其保育の方法が、前述へ來つた様に當を得て居らぬといふことが確に其一だと考へます。即ち方法が悪いのであつて幼稚園其ものが悪いのでない、幼稚園は十分理論のある根據の上に立つて居るのであるから、先づ此方法を改めて、夫をして十分の結果を得しめんことを計らねばなりません。如何程有功な機械であつても、其使用の方法を誤まつては、反つて反對の結果を生じるのは明であります。従つては、此幼稚園保姆の養成といふことに力めねばなりません。御承知の通り、學校教員の方は、師範學校や、其他でどん／＼養成しますのに幼稚園保姆の養成所といふものは、全國に一もないのでありますから幼稚園保育法の改良などのとても出來様筈がないのであります。夫とも一つは、幼稚園に對する父母の考が、も一段改まらんければいけませんまい、何を教へてくれぬから、幼稚園へは出さぬいふ様な考だと、幼稚園の方でも甚だ迷惑します、こう云ふ様に、幼稚園の内部からと、又父母の考の方からと、兩方から改まつて行きますと、幼稚園の功果も十分擧つて、其必要は益々、明になつて參りませう。

永く御咄し致しまして、定めて御聞き苦しかつた事と存じます。